

本時のねらい

オリジナルのタイピング問題を作成し、交流を通してタイピング能力を高める。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・本時の授業では、iPad のプロゼミというアプリを用いてタイピングのオリジナル問題を作成する。日頃から教員が提示したタイピング課題には取り組んでいるが、本時では自ら問題を作成し他の生徒と交流することで、主体的に活動に参加することをめざした。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット端末 (iPad) ・プロゼミ (アプリ)

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (7 分)	○本時のめあて、学習活動の流れを確認する。	・「プロゼミ (アプリ)」で、オリジナル問題が作成できるように事前に設定しておく。
展開 (36 分)	○作成したい問題の言葉を、日本語・ローマ字でプリントに記入する。 例：歴史上の人物のカルタ 国旗のカルタから言葉を選択 ○iPad を配付し、プロゼミの使い方の説明をする。 ○「プロゼミ」を起動し、問題を作成する。 例：織田信長 → odanobunaga ○作成した問題を自分で解く。 ○iPad を交換し、ペアの生徒が作成した問題に取り組む。	・初めから iPad で問題作成に取り組むのではなく、後から確認しやすいように、プリントに日本語・ローマ字を記入させる。 ・実際に教員もプロゼミを起動し、生徒と一緒に操作しながら問題づくりを体験させ、問題づくりのプロセスとイメージを持たせる。
まとめ (7 分)	○ふりかえりを記入する。 「自分で作ったから面白かった」 「自分の好きな食べ物でやってみたい」	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1：プロゼミのプログラミング画面



写真 2：考えた問題をプログラミング画面で打ち込んでいる場面



写真 3：友達がプログラミングした問題を実際に解いている場面

児童生徒の反応や変容

iPad に小学校段階から触れていることから、操作にも慣れており、タイピングもスムーズにできた。自分の問題を相手に取り組んでもらうという設定により、主体的に、集中して活動に取り組むことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・初めから iPad を使って問題作成に入るのではなく、紙面で取り組むと活動がスムーズであった。「問題を作成する活動」と「タイピング活動」は分けて学習することが望ましいと感じた。
・作成するオリジナル問題について、例えば「私の好きなもの」などのテーマに変更すれば、生徒同士の交流も活発になるなど、活動の幅を広げられると可能性を感じた。